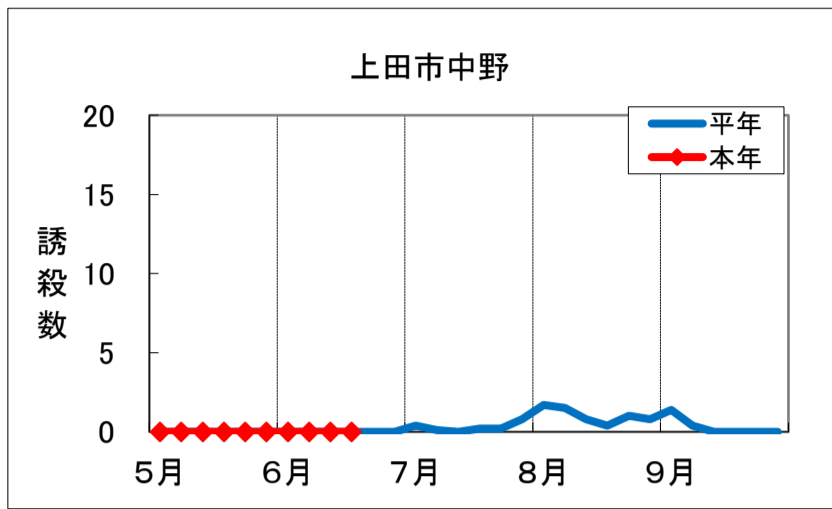


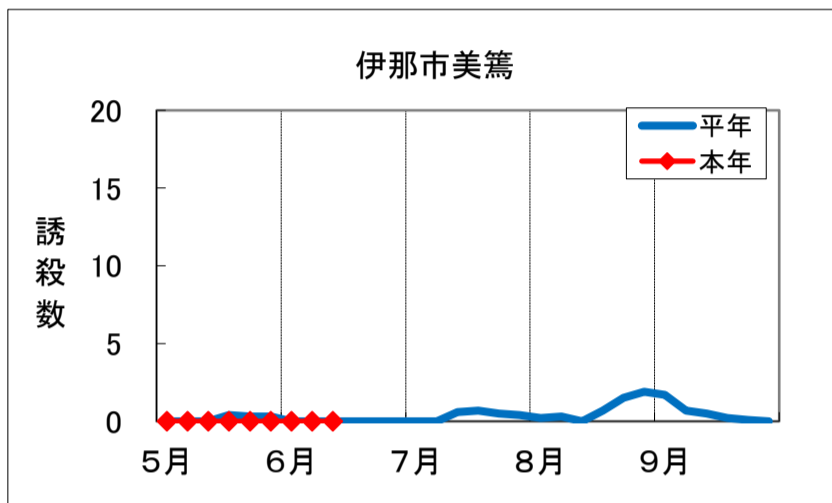
予察灯によるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の誘殺消長

【令和8年・(2026年)】

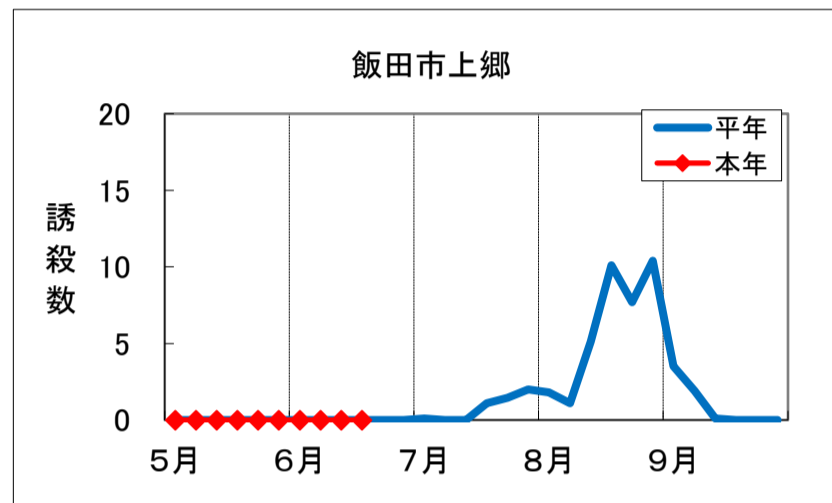
・6月第4半旬現在、いずれの地点でも誘殺はありません。(安曇野市穂高では6月第2半旬、伊那市では6月第4半旬に予察灯の電球切れのため欠調)



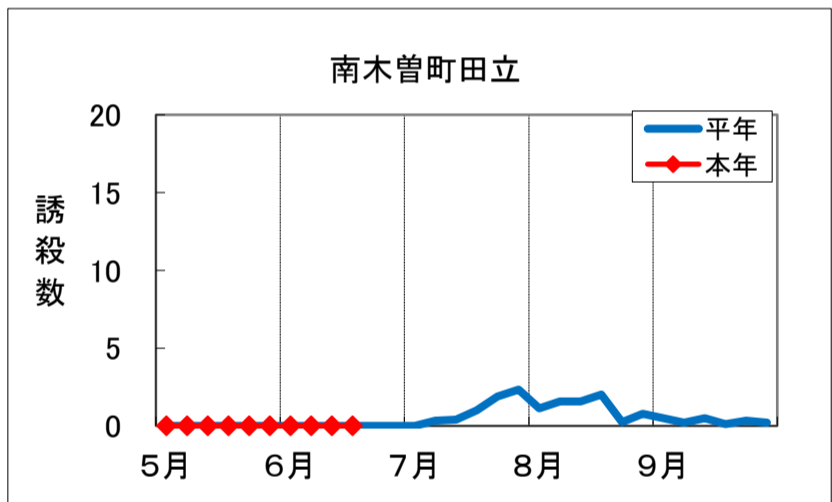
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



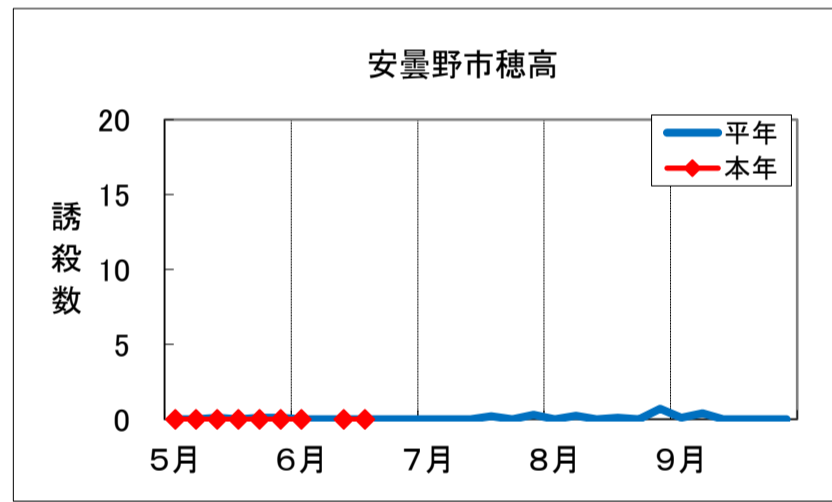
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



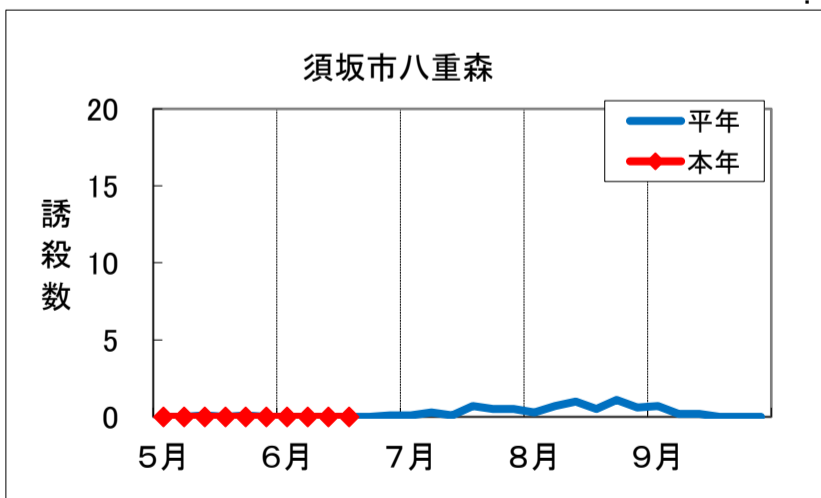
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

本県におけるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生は、年3回が一般的です。標高の高い地域や、低温の年に発生が多くなります。蛹で越冬し、5月下旬に第1回成虫(越冬世代)が発生します。第1世代幼虫は6月中下旬に発生し、イネの葉を葉縁から台形に食害します。

上のグラフは予察灯で捕獲された成虫数です。

2 防除時期

平年の第1世代幼虫の防除は6月中下旬頃、第2世代幼虫の防除は7月中旬頃、第3世代(越冬世代)幼虫の防除は8月上旬頃です。